

貧困・苦境児童を支える

FOREST EYE ACTIVITY LETTER

年次報告書

2017



FOREST
Bless to you ...



MISSION

- ・ 現在(いま)を生きる不遇な環境で育つ子どもたちすべてが、輝ける道を創り、循環支援の輪を生み出す

VISION

- ・ どんな子どもたちにも平等に夢を
- ・ どんな子どもたちにも未来への希望を
- ・ どんな子どもたちにも無限の可能性を
- ・ どんな未来の子どもたちにも繋がる循環支援の輪を

CORE VALUE

- ・ 子どもたちの可能性を大切にします
- ・ 人との繋がり、縁、想いを大切にし、お互いを尊重します
- ・ 自らの言動、行動に対し、偽りなく誠実であり続けます
- ・ 最善の方法を常に探求します

CONTENTS

- 01. MISSION / VISION / CORE VALUE
- 02. CONTENTS
- 03. 団体概要
- 04. 2017 年度総括
- 05. 国内事業
- 10. 海外事業
1st Project
- 12. 会計報告

特定非営利活動法人 FOREST

年次報告書

2017

FOREST EYE
ACTIVITY LETTER



- チェイホーム ソティ -

チェイホームで皆と一緒に生活を送っていたソティが水の事故で2017年11月24日に17歳という若さで亡くなりました。

とても明るく、チェイホームのお手伝いや小さな子どもたちの面倒をよく見てくれるしっかり物の女の子でした。

これから沢山の事を経験し、吸収して貰いたいと願っていただけに、とても残念でなりません。事故当初、チェイホームは悲しみで包まれていたため、子どもたちの心のケアを最優先に進めて参りました。現在はチェイホームにも少しずつ日常生活を取り戻す事が出てきています。このような悲しい事故が再び起こることがないように、子どもたちの安全を第一に考え進めて参りたいと思います。

団体概要



FOREST
Bless to you ...

世界には、さまざまな理由から「学ぶことを許されない」「明るい未来を描けない」「選ぶ権利がない」など、可能性を制限されている子どもたちがたくさんいます。

Forest(フォレスト)は、子どもたちが本来持っている権利や可能性が、生まれ育つ環境、境遇によって制限されてしまうことがないよう、子どもたちに寄り添った支援を進めて行く特定非営利活動法人です。また、常に活動を見直し、経費を削減することで、より多くの支援を現地に届けます。

社名の由来

木は自然の恵みを十分に受けることで、幾本もの枝を広げやがて大樹へと生長していきます。Forestは、子どもたちの成長を木々に例え、恵まれない境遇にいる子どもたちが、多くのことを吸収できるよう、そして、より多くの可能性の枝を広げられるようにという願いを込めて用いました。

ロゴの意味

白で描かれた木は子どもの木をイメージしています。

そして、子どもの木の周りを彩るそれぞれの色は子どもたちの個性や可能性が広がって行く事を表しています。

本部：〒060-0061 北海道札幌市中央区南1条西7丁目12-6

支部：〒8150-042 福岡県福岡市南区若久6-24-8

T E L 011-272-7716

F A X 011-272-7715

E-MAIL info@forest-japan.org

W E B <http://forest-japan.org/>

設 立 日	2013年12月3日
法 人 設 立 日	2014年4月8日
代 表 理 事	小野塚 舞
理 事	用川 則幸 / 町田 武文 賀來 友麻 / 岡部 憲幸
監 事	植西 圭

2017年総括

2017年度も皆さまからのあたたかいご支援を頂きまして本当にありがとうございました。

2016年度は、1stプロジェクトであるカンボジア孤児院の運営支援がスタートし、子供たちの日々の生活風景に触れる事が出来ました。そして2017年は運営方針に対し文化や習慣、考え方の違いから意見が食い違う事もあり、お互いの思いに触れる機会もございました。また、11月にはチェイホームの女の子ソティが亡くなり、今年の1年はチェイホームにとって忘れる事の出来ない1年となりました。当時、沢山の悲しみで溢れていたチェイホームも少しずつではありますが、明るさが戻って来ているように感じます。今回の事をきっかけに改めてその一瞬一瞬が大切だということを再認識させられました。これかも一瞬一瞬を大切に、子どもたちと一緒に進んで参りたいと思います。国内事業では、前年に引き続きチャリティイベントの開催や沢山の企業様のご支援を頂戴し、児童養護施設の子どもたちへ支援を実施する事が出来ました。毎年、新たな児童養護施設とのご縁を頂き、様々な視点からお話を聞かせて頂く機会が御座いますが、こういった機会は私達フォレストにとってとても重要な情報源となり、そして原動力へと繋がっています。こうしたご縁や機会は沢山の方からの支えで頂くことが出来ており、本当に心より感謝致しております。また、今年度は障がい者の方の自立のための支援を行えるよう準備を進め、2018年1月に無事、開所することが出来ました。この事業所を通じて1人でも多くの障がい者の方の「キッカケ」や「チャンス」「可能性」へと繋がってくれたらと思っております。来年度も国内外問わず、今の私たちに出来る事を1つ1つ進め、やりたい事、出来る事を増やして行きたいと思っております。2018年も応援をよろしくお願い致します。

国内事業

JAPAN

gooddo

ONE PIECE FOR PEACE

CHARITY-SPORTS

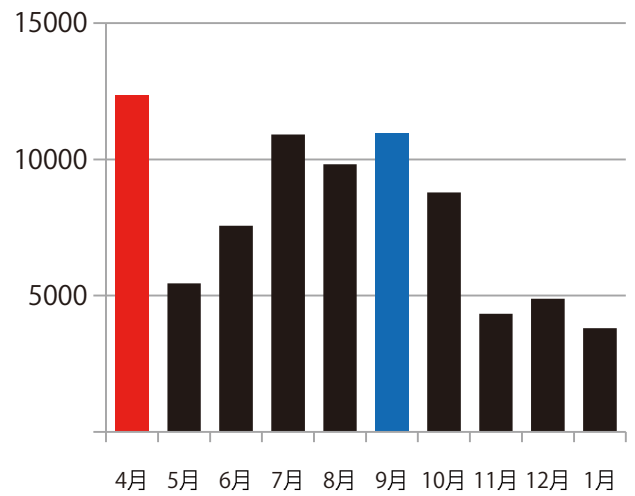


gooddo

昨年以降、日頃ご支援を頂いているコミュニティの中で「応援のお願い」の呼びかけを継続して勤めて参りました。その成果もあり、今期も安定したご支援を頂く事ができ、フォレストにとっても大きな支援となりました。

しかし、gooddo 株式会社より 2018 年 1 月末をもって「広告いいね!」での応援支援が終了する旨の通知がございました。内容としては「広告いいね!」での応援が仕組み的にできない状況で、サポーター企業の参画が難しくなり、一度この仕組み自体を見直す方向で有るということでした。私達にとっても非常に大切な支援を呼びかけるツールになっていたため、非常に残念です。ですが、これからも誰にでも気軽に簡単に支援をしてもらう事の出来る方法を模索しながら勤めて参りたいと思います。

gooddo 応援推移



【WEB】 <http://gooddo.jp/gd/group/forestjapan/>

ONE PIECE FOR PEACE

今期は新たにご協力いただいた企業様が増えた事で 29,200Piece が集まりました。また、昨年度に引き続き札幌大成さまにご支援を頂き、ONE PIECE FOR PEACE が印字されたお歳暮ギフトが各スーパーに陳列されました。そしてこの支援で集まった Piece は 56,994Piece にもなりました。

毎年こうして沢山の方に継続したご支援を頂き、子供たちの支援活動を行えていることに感謝致します。



CHARITY-SPORTS

「楽しい・新しい出会い」を支援に繋ぐ

8月7日フォレストの第四回チャリティゴルフコンペを開催致しました。

天候にも恵まれ、今年も沢山の方にご参加頂くことが出来ました。昨年よりも更に参加者の皆様楽しんで頂き、そして支援の輪を広げて行けたらという思いから、進行の組み立てから景品の選定など、スタッフと打ち合わせを重ね進めて参りました。当日はそれぞれが責任をもって役割を果たしてくれていた

ので、大きな問題も、事故もなく、とても賑やかで楽しい雰囲気表彰式となることが出来ました。また今年もたくさんの企業様、そしてプロゴルファーの方からご協賛を頂き素敵な賞品や参加賞を揃える事が出来たため、参加者の皆様には大変喜んで頂きました。これからも参加者のみなさま、企業の皆様とこのチャリティゴルフコンペを通じて新たな縁や支援が広がっていけるよう進めて参りたいと思います。

【開催内容】

開催日：2017年8月9日

参加人数：78名

会場：ハッピーバレーゴルフクラブ

チャリティ金額：137,008円

協賛企業様：河野晃一郎プロ、塚田陽亮プロ、内藤寛太郎プロ、アンコキヌ、入人家、株式会社 WINST、株式会社 LOL（エルオーエル）、株式会社 キープグループ、株式会社木の城たいせつ北海道家具事業部、クワハラ食糧株式会社、株式会社こがね、株式会社コンサドーレ、株式会社札幌大成、株式会社ジャパンビバレッジ、北海道、寿司数馬、有限会社大道工業、チキンダイニング、隠りど、肉バル、ハチ、橋本靖弘税理士事務所、有限会社フォー・ツリー、株式会社プロスパー、株式会社丸泰オー・エム・アイ、ミチウエ、モエレ沼芸術花火実行委員会、株式会社 HandMad、株式会社 MOHRD、焼肉ダイニングMEGUMI（五十音順）



国内事業

2nd PROJECT JAPAN

CHARITY-EVENT

物品支援



社会教育・健全育成の推進Project

モエレ沼芸術花火 2017 で子供たちと感動の共有と心に残る思い出を。

日本の子どもの貧困率は、先進国で最悪レベルだと言われており、現在も両親がいる家庭とひとり親家庭ではその格差は大きなままとなっています。様々な格差が生じている中でフォレストとしては子供たちに芸術や文化、スポーツ等に触れることの機会や社会との繋がりを持つ機会を増やしてもらいと思い、2015 年より児童養護施設等で生活を送る子どもたちを対象に2つの機会を支援しています。3 回目を迎えるこの支援企画内容は「モエレ沼芸術花火の観覧招待」と「世界一たのしいゴミ拾いのボランティア参加」の2つがあります。今年のモエレ沼芸術花火 2017 の来場者数は 24,000 人を超え沢山の人でにぎわっており、今年は柏葉荘の子供たちと職員の方、そしてむぎのこの子供たちと保護者、職員の方を含め総勢 51 名を招待することが出来ました。天候にも恵まれ、間近で見る花火に沢山の子供たちの感動と笑顔見ることが出来きとても暖かい支援内容となりました。





子供たちへ社会と繋がる交流の場を増やすために。

家庭で生活を送る子どもたちが、勉強やスポーツ、手伝い等何かを自発的に頑張った時、家族に褒められたりその行為にご褒美をもらったりする事があるかと思いますが、親元を離れ生活をおくる子どもたちはそういった機会を得る事が中々ありません。そのため、子どもたちに頑張ることに対しての喜びや充実感を感じ取って欲しいと考え、「世界一たのしいゴミ拾い」にボランティアとして参加し、一生懸命花火のガラやゴミを拾い集めてくれる子どもたちに対し、フォレストとして頑張ってくれた事へのお礼のお菓子をプレゼントしました。お菓子を手にとった子どもたちのどの子も笑顔が生まれ、とても喜んでくれていました。フォレストとして出来ることは大きな事ではありませんが、こうして少しでも子どもたちが頑張った事への喜びを感じる事の出来る機会を増やして行きたいと思います。

物品支援

チャリティスポーツイベントを通じて私達は毎年児童養護施設へ物品支援を行っていますが、今年は麦の子会と羊ヶ丘養護園の子どもたちに物品支援を実施することが出来ました。麦の子会の子どもたちには読み聞かせで全員が一緒に楽しむことが出来るよう大きな絵本を、そして羊ヶ丘養護園の子どもたちには日々の生活に欠かすことの出来ない洗濯機を届ける事ができました。それぞれの施設には幼い子どもたちが沢山いますが、どの子どもたちも笑顔で出迎えてくださいました。麦の子会さんでは読み聞かせを一緒に聞いたり、お歌を一緒に歌ったりと子どもたちとの交流を通じ、沢山の笑顔と元気な姿を見る事ができました。羊ヶ丘養護園さんでは子どもたちが自分たちの生活風景を教えてくれたり、普段どのようにして子どもたちが生活を送っているのかを知ることが出来ました。今回の機会を通じ各施設で必要としている事や物は様々でまだまだ足りていないことを痛感いたしました。私達に出来ることは小さな一つかもしれませんが、これからも相手に寄り添った形で出来る支援を目指して行きたいと思います。



国内 事業

3rd PROJECT JAPAN

就労継続支援 branch for pro



branch for pro

「障がい者の自立」を目指した支援を

今期初めより計画を進めて参りました、障がい者の自立を目指した就労継続支援事業所を 2018 年 1 月に開所致しました。

私達はこれまで経済的格差によって生じる子どもたちの貧困の連鎖、生まれ育つ環境や境遇によってその可能性を奪われてしまう子どもたちの支援を進めて参りましたが、その支援を進めていく中で障がい者に対しても同様に支援が出来ないかと考えるようになりました。

生まれながらに身体に障害を持っている人や現代の環境下で精神に障害を抱えてしまった人たちも「環境や境遇に制限されずチャンスをつかむ事ができ、実りある輝いた人生であってほしい」と思い、出来るだけ一般就労に近い形の就労継続支援事業所を目指そうと開所致しました。

現在日本では数多くの就労支援事業所がありますが、私達が取り組む就労支援事業所の内容はどの企業にも直結する、「経理作業」や、現在では企業にとって欠かすことの出来ない WEB に関する「パソコン操作」が主となっており、どの企業でも必要とされる技術を身に付けてもらうことを目的としています。私達の就労支援事業所を通じて一人でも多くの方が技術を習得し、社会の一員として自信や輝きを取り戻し、自立(自律)へと向かうことが出来るよう支援を進めて参りたいと思います。



BRANCH FOR PRO



【事業所情報】

名称：

branch for pro(ブランチフォープロ)

所在地：

札幌市中央区南 1 条西 7 丁目 12-6

事業内容：

WEB 関係・経理関係

利用者：

12 名 ※3 月末現在

海外事業

1st PROJECT CAMBODIA

孤児院支援



子どもたちの 教育・健康・成長が守られる
成長支援活動

1970年以降の内戦中には何もかもが崩壊し、現在は教育や貧困等の問題解決に向け、日本を含めた諸外国や支援団体の活動により、学校や孤児院を建設したり、物資の支援等が進められ近年目覚ましい成長を見せていますが、それとともに経済的格差が激しくなっているのも現状です。また、カンボジアにはたくさんの孤児院が存在していますが、そのクオリティはまさにピンキリとなっており、支援規模によって施設の充実度や子供たちの教育レベルなどに違いが発生しています。そしてそれ以前に一番の問題は孤児院に関わる大人たちの意識だと感じております。

この意識の問題とはまだまだ子供たちをダシに支援を募り、私腹を肥やす為だけの孤児院」が悪意を持った大人たちの手によって少なからず存在しているという事です。こうした孤児院では「子供に対する暴力」や「人身売買」まで行われていることもあります。カンボジア政府もライセンスを剥奪するなど対処はしていますが、悪質な孤児院に関わる大人は「ビジネス」として孤児院を運営しているため、その数は中々減らない状況となっています。

孤児院支援「チェイホーム」

【チェイホーム・コンポンスプーでの一日例】



- 05:00 起床後、各自の登校に合わせて準備
木や畑の水遣りや掃除【男の子】朝食の調理【女の子】
- 07:00 朝食の片付け【プテアヴィー】
昼食の準備【プテアヴィー】
- 11:00 学校から帰園
- 12:00 昼食
片付け【女の子】
- 13:00 小学生程度の英語クラス(月曜日から金曜日)
- 14:00 日本語教室(週末)
- 15:00 中学生程度の英語クラス
- 16:00 家畜や畑の作業【男の子】
夕食の準備【プテアヴィー・女の子】
- 18:00 夕食

海外事業

1st PROJECT CAMBODIA

孤児院支援



孤児院支援「チェイホーム」

現在、私達が支援を行っているチェイホームでは3つの約束を元に支援を行っています。

- ①英語、日本語などの教育を(学校の授業 + aで孤児院にて)実施すること
- ②礼儀やモラルなど立派な大人になる為のしつけをすること
- ③支援金の使途を明確にし、子供たちの為に大切に使うこと

これらを前提に 2015年4月、支援をスタートしてから今までチェイホームに関わる大人たちの手によって約束は守られ続けています。①の外国語を中心とした教育の充実カンボジアはクメール語が母国語ですが、複数の言語が話せるかどうかで就ける職業と収入が圧倒的に違うからです。この方針にのっとり、大人も子供も真剣に日々の勉強に取り組んでいます。

物品支援

今年も H2 CONSULTING 株式会社の木村様が訪問して下さり、沢山の物資を支援してくださいました。

定期的に訪問と支援をして頂いており、現在のチェイホームの生活、運営にとってとても大切な支援となっています。また、子どもたちが海外の人たちと触れ合う事の出来る機会を持ち文化や風習、思考に触れるという事はとても貴重な経験で子どもたちの成長に大切な物となっています。今後もこうした交流を通じ、感謝の気持ちを忘れず、子どもたちに沢山の事を見て学び成長してもらいたいと思います。





FOREST
Bless to you ...